

市場の混乱にもかかわらず業績は堅調

単位：百万ユーロ	クレディ・アグリコル S.A.		クレディ・アグリコル・グループ	
	2026 年度 第 1 四半期	前年同期比増減率 2026 年度第 1 四半期 / 2025 年度第 1 四半期	2026 年度第 1 四半期	前年同期比増減率 2026 年度第 1 四半期 / 2025 年度第 1 四半期
収益	6,994	+0.9%	10,000	+2.8%
経費	-3,981	-0.2%	-6,033	+0.7%
営業総利益	3,013	+2.4%	3,967	+6.2%
リスク関連費用	-547	+32.2%	-960	+30.6%
純利益グループ帰属分	1,676	+1.8%	2,097	+5.5%
コスト比率	56.9%	-0.6 パーセント・ポイント	60.3%	-1.3 パーセント・ポイント

四半期業績は好調

- 四半期業績は向上⁽¹⁾、全事業部門での継続的な事業活動と業務効率の改善がけん引
- 収益は 3.2%増加し、コストは抑制され、その結果、同一条件ベースで費用伸び率に対する収益の伸び率は 1.7 パーセント・ポイントのプラス⁽²⁾
- リスク関連費用は抑制されており、中東での紛争を背景に保守的に引当（クレディ・アグリコル・グループは残高に対して 30 ベーシス・ポイント、クレディ・アグリコル S.A.は残高に対して 38 ベーシス・ポイント）
- 収益性は堅調で、有形株主資本利益率は 13.7%

全事業部門で活動は活発

- 60 万人の顧客を獲得、フランスとイタリアでデジタル・チャネルが下支え
- フランスとイタリアの競争的な住宅市場でローン組成が堅調、企業向け貸付は活発、消費者金融とモビリティの組成は底堅いが、自動車市場は目下、厳しい状況
- 貯蓄部門と保険部門の活動は非常に活発
- 法人営業及び投資銀行業務と資産運用サービス業務は、3 月の非常のボラティリティの高い状況での市場の活況と投資銀行の好業績が寄与

戦略事業の継続

- Banco BPM の持分は 22.9%に増加
- ウクライナの Bank Lviv 買収で合意

ドイツでデジタル貯蓄プラットフォーム「CA SAVINGS」を立上げ

高いソルベンシーレシオ

- クレディ・アグリコル・グループの段階的導入 CET1 レシオは 17.1%、クレディ・アグリコル S.A.の段階的導入 CET1 レシオは 11.4%

¹ 増減はすべて 2025 年度第 1 四半期比で見積りベース（Banco BPM は持分法で連結）

² アムンディ US の連結除外の影響（2025 年度第 1 四半期の収益に 9,000 万ユーロ、費用に 6,700 万ユーロ）と ICG の有価証券評価（2026 年度第 1 四半期に 6,800 万ユーロ）を除く

エリック・ヴィアル

SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長

「第 1 四半期の好調な業績は偶然ではなく、地域に根ざした独自の多様なモデルに基づいており、四半期ごとにその妥当性が証明されています。比較的変動の激しい環境のなかで、クレディ・アグリコルは一貫性と責任感を持って、顧客を長期的に支援し、地域経済を維持し、進行中の大きな変革に積極的に貢献するという使命を全面的に果たしています」

オリビエ・ガヴァルダ

クレディ・アグリコル S.A.最高経営責任者

「課題はありますが、当グループは第 1 四半期、業績を堅実に伸ばしました。第 1 四半期の業績はすべての事業部門における持続的な発展、顧客のデジタル・ジャーニーの加速、欧州での拡大の継続を反映しています。効率的なコスト管理により、当グループは 2025 年度第 1 四半期比で営業利益の 6.2%増を達成できました」

2026 年 4 月 29 日のクレディ・アグリコル S.A.の取締役会で、SAS Rue La Boétie が株式資本の 65%を上限に、最高 8 億ユーロまでクレディ・アグリコル S.A.の株式を購入する意向を明らかにしました。当該取引の詳細は、SAS Rue La Boétie が本日、公表したプレスリリースに記載されています。

本プレスリリースは、クレディ・アグリコル S.A.に加え、クレディ・アグリコル S.A.の各事業体とクレディ・アグリコル S.A.の 63.5%を保有するクレディ・アグリコル地域銀行から構成されるクレディ・アグリコル・グループの業績についてコメントしています。

クレディ・アグリコル・グループ、クレディ・アグリコル S.A.及び事業部門の業績、損益計算書と収益率の両方について、すべての財務データが表示されています。

クレディ・アグリコル・グループ

当グループの活動

当四半期における当グループの営業活動は、すべての事業部門で好調に推移し、**顧客獲得**も非常に高い伸びとなりました。2026 年第 1 四半期、当グループのリテール・バンキング部門の新規顧客数が 60 万人で、内訳はフランス国内で 45 万人、国外（イタリア、ポーランド、エジプト、およびウクライナ）で 15 万人でした。顧客獲得の勢いは、とりわけデジタル・オンボーディングが下支えし、フランス（L by LCL Pro を介して）とイタリアでは明らかに加速しています。こうした傾向の中心として、証券口座や株式貯蓄プラン（PEA）の開設、住宅ローンでの原則オンライン承認の取得、Orianse の新規保険契約の販売で Ma Banque のデジタル・ジャーニーが強化されています。同時に、この勢いはドイツでの CA 貯蓄部門のデジタル貯蓄プラットフォームの立上げによりさらに加速しています。

2026 年 3 月 31 日現在、リテール・バンキング部門では、**オン・バランスシートの預金**がフランス及びイタリアで前年同期比 1.2%増の総額 8,450 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 1.1%増、イタリアで 1.9%増）となりました。**貸付残高**は、フランス及びイタリアで前年同期比 1.9%増の総額 8,970 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 1.8%増、イタリアで 2.3%増）となりました。フランスでは、ネットワークによって傾向は異なるものの、**住宅ローンの組成**が安定した競争の激しい市場において、2025 年第 1 四半期比で全体で 6%増加しました。**法人部門**でも、活動は非常に底堅く、前年同期比 7%増となりました。CA イタリアの**法人向けローンの組成**は 2025 年度第 1 四半期に比べて倍増し、とりわけ活発で、住宅ローン市場は非常に競争が激しくなりました。

資産運用では、パッシブ運用（ETF、指数ソリューション）、それにアクティブ運用での債券、クレジット、多様な戦略、それにプライベート・アセットが原動力となり、純資金流入が 320 億ユーロと非常に高水準となりました。**保険**では、貯蓄・退職金の総資金流入額が 126 億ユーロ（2025 年度第 1 四半期比 19%増）となり、ユニット・リンク型商品の比率は 34.7%で、フルデジタルの新しい生命保険商品である Orianse の発売が予定されています。**純流入額**は過去最高の 57 億ユーロに達し、ユーロ建て商品とユニット・リンク型商品でともに増加しました。**損害保険**に関しては、業績は、保険料の引上げと 2026 年 3 月末時点で 1,800 万件の契約ポートフォリオ（前年同期比 7.3%増）が下支えしました。**運用資産**は資産運用および貯蓄で 3 兆 750 億ユーロ（前年同期比 6.9%増）となり、内訳は資産運用で 2 兆 3,980 万ユーロ、保険で 3,780 億ユーロは保険、ウェルス・マネジメントで 2,990 億ユーロでした。

SFS 部門の事業活動は堅調でした。CAPFM の**組成**は、自動車市況の低迷が続くなかでも、底堅く推移しました。組成額は 2025 年度第 1 四半期比 3.5%増の 114 億ユーロで、すべての事業部門で伸びました。**消費者金融残高**は 2025 年 3 月末比で 1.9%増の 1,230 億ユーロに増加し、原動力となったのは国際消費者金融で、自動車部門は安定的でした（CAAB と中国では減少、Leasys では増加）。CAL&F の活動に関しては、リースの新規組成が、フランス国外の事業体全体での伸びと Merca Leasing の連結が補ったものの、フランスの低調な環境のなかで、2025 年 3 月比 1.3%減とわずかながら減少しました。**ファクタリング**の組成は、フランスおよびドイツの大型案件（2025 年度第 1 四半期比 53%増）が原動力となり、高水準となりました。

大口顧客部門は今四半期、力強い伸びとなりました。**投資銀行業務**はストラクチャード・エクイティ、合併、買収、それにエクイティ・キャピタル市場の活動が原動力となり、好業績となりました（為替変動の影響を除くと 2025 年度第 1 四半期比 29.4%増）。**資本市場業務**は、発行市場の減速（FICC は為替変動の影響を除くと 6.4%減）が影響しました。**ファイナンス業務**は、キャッシュ・マネジメントと輸出金融の活動は好調でしたが、レバレッジド・バイアウト（LBO）が減速し、2025 年度第 1 四半期比 6.0%減と低下しました（為替変動の影響を除くと 1.1%減）。ストラクチャード・ファイナンス業務は、2025 年度第 1 四半期が好調であったことからやや低下しました（為替変動の影響を除くと 3.7%減）。**資産運用サービス業務**は、新規顧客の獲得と 2025 年度第 2 四半期の Degroof Petercam の業務の統合が下支えし、カストディ資産と運用資産が高水準になりました（6 兆 1,260 億ユーロと 3 兆 8,300 億ユーロ）。受渡決済金額は、3 月の市場変動を背景に大幅に増加しました。

移行支援の継続

クレディ・アグリコル・グループは、当グループの計画、Act 2028 で発表した 2028 年の新たな 3 つの持続可能ファイナンス目標を定め、移行支援を強化しています。

当グループは 2028 年までにグリーン燃料融資と化石燃料融資の割合を 90 対 10 にすることを目指しています。当該割合は、低炭素エネルギー源に関連するエクスポージャーと化石燃料（石油、ガス、石炭）の採掘に関連するエクスポージャーの比率で測定します。2024 年末および 2025 年末では、それぞれ 84 対 16 と 89 対 11 でした。

当グループは、環境および社会移行に関する融資残高⁽³⁾を 2028 年末までに 2,400 億ユーロにすることを目指しています。当該残高は 2025 年 12 月 31 日時点で 2,200 億ユーロで、主な内訳は環境移行に関する残高が 1,190 億ユーロ、社会的包摂および結束に関する残高が 780 億ユーロでした。これに対して、2024 年 12 月 31 日時点では 2,020 億ユーロで、主な内訳は環境移行に関する残高が 1,140 億ユーロ、社会的包摂および結束に関する残高が 710 億ユーロでした。

最後に、BFI はサステナブル・ファイナンス⁽⁴⁾からの年間収益を 2028 年度までに 10 億ユーロに引き上げることを目指しています。2024 年度と 2025 年度の当該収益はそれぞれ、6 億 5,500 万ユーロと 7 億 2,900 万ユーロでした。

³ 環境移行への融資、社会的包摂および移行全般への融資

⁴ 市場基準および当グループの基準に準拠した持続可能な財務構造の取引

当グループの業績

2026 年度第 1 四半期には、クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、営業総利益の大幅増がけん引し、2025 年度第 1 四半期比 5.5%増の 20 億 9,700 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループの 2026 年度第 1 四半期および 2025 年度第 1 四半期の連結業績

En m€	Q1-26	Q1-25 ⁵	Δ Q1/Q1
Revenues	10,000	9,726	+2.8%
Operating expenses	(6,033)	(5,992)	+0.7%
Gross operating income	3,967	3,734	+6.2%
Cost of risk	(960)	(735)	+30.6%
Equity-accounted entities	271	177	+53.0%
Net income on other assets	27	4	x 6.8
Change in value of goodwill	-	0	n.m.
Income before tax	3,305	3,180	+3.9%
Tax	(1,021)	(1,000)	+2.1%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	(0)	n.m.
Net income	2,284	2,180	+4.8%
Non controlling interests	(187)	(193)	(3.0%)
Net income Group Share	2,097	1,987	+5.5%
Cost/Income ratio (%)	60.3%	61.6%	-1.3 pp

2026 年度第 1 四半期の収益は、地域銀行の純利鞘の急増（2025 年度第 1 四半期比 34.3%増）が寄与し、2025 年度第 1 四半期比 2.8%増の 100 億ユーロとなりました。営業費用は 60 億 3,300 万ユーロと抑制され、前年同期比 0.7%増とおおむね安定しました。その結果、営業総利益は 39 億 6,700 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 6.2%増（同一条件下では 8.7%増⁶）となりました。コスト比率は 60.3%となり、2025 年度第 1 四半期と比べて 1.3 パーセント・ポイント改善しました。

信用リスク関連費用は、前年同期比 30.6%増の 9 億 6,000 万ユーロでした。これには、7 億 5,500 万ユーロの不良債権（ステージ 3）の純増、1 億 5,900 万ユーロの正常債権（ステージ 1 およびステージ 2）の保守的引当が含まれます。後者は、8,000 万ユーロの IFRS 第 9 号のシナリオの見直しの影響と中東の紛争に伴う 2,800 万ユーロの地域セクター別リスクの引当を含みます。また注目すべきこととして、その他のリスクが 4,600 万ユーロ純増しており、これには CAPFM の 1,700 万ユーロの英国の自動車ローンに関する法的リスクに対する追加の訴訟引当金などが含まれます。引当水準は、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一定率の調整を加えることによって決定されました。当該シナリオの重み付けは、中東の紛争とそのマクロ経済的影響を反映するため、2025 年第 4 四半期と比べて中程度の悪影響シナリオの重み付けを引き上げることで、2026 年度第 1 四半期に調整されています。2026 年度第 1 四半期の加重経済シナリオは前四半期に使用したものと同じです。残高に対するリスク関連費用⁷はローリング 4 四半期ベースで 30 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベースで 31 ベーシス・ポイントでした⁸。

⁵ 増減はすべて 2025 年度第 1 四半期比で見積りベース（Banco BPM は持分法で連結）

⁶ アムンディ US の連結除外の影響（2025 年度第 1 四半期の収益に 9,000 万ユーロ、費用に 6,700 万ユーロ）と ICG の有価証券評価（2026 年度第 1 四半期に 6,800 万ユーロ）を除く

⁷ ローリング 4 四半期のリスク関連費用/残高（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

⁸ 年換算のリスク関連費用/残高（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

当四半期の税引前利益は、2025 年度第 1 四半期比で 3.9%増の **33 億 500 万ユーロ**でした。これには、ICG の初回連結の影響や資産運用部門に対する Victory Capital に関連する連結範囲変更の影響⁹⁾など、**2 億 7,100 万ユーロの持分法適用会社からの寄与**（2025 年度第 1 四半期比で 9,400 万ユーロ増）が含まれます。**税金費用**は前年同期比で 2.1%増の 10 億 2,100 万ユーロでした。

非支配持分控除前の純利益は前年同期比で 4.8%増加して 22 億 8,400 万ユーロとなりました。**非支配持分**は 600 万ユーロ減少しました。

地域銀行

顧客獲得総数は 32 万人増となりました。主に要求払預金を利用している顧客の割合とデジタル・ツールを利用する顧客の割合は引き続き増加しました。クレジットの市場シェア（クレジット全体）は 23%（2026 年 1 月末時点。出所：フランス銀行）で、2025 年 1 月と比べて 0.4 パーセント・ポイント上昇しました。**ローン組成は好調に推移し**、住宅ローン（2025 年度第 1 四半期比 11.7%増）と専門市場（同 9.5%増）により、2025 年度第 1 四半期比で 10%増加しました。住宅ローンの平均貸出金利は 3.05%となりました¹⁰⁾世界全体の貸付残高率は前年同期比で改善しました（+10 ベーシス・ポイント）。2026 年 3 月末の**貸付残高**は合計 6,610 億ユーロで、すべての市場で前年同期比 1.9%増となり、前四半期比では 0.4%増とわずかに増加しました。

2026 年 3 月末時点の**顧客資産**は前年同期比 3.1%増の 9,444 億ユーロとなりました。この伸びの原動力は、6,126 億ユーロとなったオン・バランスシートの預金（前年同期比 1.6%増）と、生命保険への好調な資金流入の恩恵を受けて 3,318 億ユーロとなったオフ・バランスシートの預金（前年同期比 6.1%増）でした。**オン・バランスシートの預金の市場シェア**は前年比で増加し、20.5%となりました（出所：フランス銀行の 2026 年 1 月末のデータ。2025 年 1 月末比 0.4 パーセント・ポイント上昇）。2026 年 3 月末の**損害保険のクロスセル・レート**¹¹⁾は 44.9%となり、引き続き上昇しました（2025 年 3 月末と比べて 0.7 パーセント・ポイント上昇）。**支払手段**では、カード枚数が前年同期比 1.6%増加し、プレミアムカードの割合が総数ベースで前年同期比 3 パーセント・ポイント増加しカード全体の 20%を占めました。

2026 年度第 1 四半期、地域銀行の連結収益は 35 億 9,800 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期から 7.8%増加しました。調達資金コストの低下に伴う純利鞘の急激な上昇（2025 年度第 1 四半期比 34.3%増）が収益の原動力となりました。手数料収入は、生命保険の手数料収入の伸びにより一部相殺されたものの、保険金請求と、口座管理および支払手段における手数料収入の減少が影響しました。**営業費用**は抑制されたものの、増加しました。**コスト比率**は、2025 年度第 1 四半期と比べて 3.3 パーセント・ポイント改善しました。**リスク関連費用**は過去四半期並みの 4 億 1,200 万ユーロとなりました。**残高に対するリスク関連費用**（年換算の四半期ベース）は 25 ベーシス・ポイント（2025 年度 4 四半期比で 2 ベーシス・ポイント上昇）と抑制されました。地域銀行の**連結純利益**は 4 億 1,200 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期から 19%増加しました。

2026 年度第 1 四半期における**クレディ・アグリコル・グループの業績への地域銀行の寄与**は、2025 年度第 1 四半期比 23%増の 4 億 2,100 万ユーロでした。

⁹⁾ アムンディの ICG 持分の初回連結による一時的な影響（8,500 万ユーロ）と Victory Capital の連結範囲変更の影響（3,100 万ユーロ）

¹⁰⁾ 2026 年 1 月および 2 月の住宅ローンの平均貸出金利

¹¹⁾ 住宅保険、自動車保険、医療保険、弁護士保険、すべてのモバイルもしくはポータブル保険、または個人損害保険のクロスセル・レート

クレディ・アグリコル S.A.

業績

2026 年度第 1 四半期の財務諸表を検証するため、エリック・ヴィアルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2026 年 4 月 29 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A.の 2026 年度第 1 四半期および 2025 年度第 1 四半期の連結業績			
En m€	Q1-26	Q1-25 ¹²	Δ Q1/Q1
Revenues	6,994	6,935	+0.9%
Operating expenses	(3,981)	(3,991)	(0.2%)
Gross operating income	3,013	2,944	+2.4%
Cost of risk	(547)	(413)	+32.2%
Equity-accounted entities	242	149	+62.3%
Net income on other assets	(3)	1	n.m.
Change in value of goodwill	-	-	n.m.
Income before tax	2,706	2,681	+0.9%
Tax	(790)	(786)	+0.5%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	0	n.m.
Net income	1,916	1,895	+1.1%
Non controlling interests	(241)	(249)	(3.5%)
Net income Group Share	1,676	1,646	+1.8%
Earnings per share (€)	0.52	0.56	(7.9%)
Cost/Income ratio (%)	56.9%	57.6%	-0.6 pp

2026 年度第 1 四半期には、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、2025 年度第 1 四半期から 1.8%増加し、**16 億 7,600 万ユーロ**となりました。

収益は 69 億 9,400 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期に比べて 0.9%増加し、同一条件下では¹³3.2%増加しました。営業費用は 39 億 8,100 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べてやや減少しました（0.2%減）。営業総利益は 30 億 1,300 ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期比で 2.4%増加しました（同一条件下では¹³¹³5.5%増）。この結果、2026 年度第 1 四半期の乖離効果は同一条件下で¹³¹³1.7 パーセント・ポイントのプラスとなりました。

2026 年 3 月 31 日現在、リスク指標はクレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さを裏付けています。不良債権比率は前四半期比で 0.1 パーセント・ポイント低下し、2.3%と依然低水準にあります。不良債権引当率¹⁴は前四半期比で 1.1 パーセント・ポイント上昇し、72.6%の高水準になりました。クレディ・アグリコル S.A.の貸倒引当金は 97 億ユーロで、2025 年 12 月末から 1 億ユーロ増加しました。これらの貸倒引当金のうち、35.2%は正常債権に対するものでした。

リスク関連費用は 5 億 4,700 万ユーロの純増となり、2025 年度第 1 四半期と比べて 32.2%増加しました。これには、4 億 500 万ユーロの不良債権（ステージ 3）に関する純増（2025 年度第 1 四半期は 4 億 1,100 万ユーロの純増）や 1 億 200 万ユーロの正常債権（レベル 1 及び 2）に関する純増（2025 年度第 1 四半期はほぼゼロの純増）が含まれます。正常債権の純増には、3,800 万ユーロの IFRS 第 9 号におけ

¹² 増減はすべて 2025 年度第 1 四半期比で見積りベース（Banco BPM は持分法で連結）

¹³ アムンディ US の連結除外の影響（2025 年度第 1 四半期に 9,000 万ユーロ）と ICG の有価証券評価（2026 年度第 1 四半期に -6,800 万ユーロ）を除く

¹⁴ ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率

るシナリオの見直しによる影響や中東の紛争に伴う 2,800 万ユーロの地域セクター・リスクに関する引当が含まれます。また注目すべきこととして、その他のリスクに関して 3,900 万ユーロ純増しており（2025 年度第 1 四半期は 200 万ユーロの純増）、CAPFM で英国の自動車ローンに関する法的リスクに対する 1,700 万ユーロの追加の法的引当金などが含まれます。事業ライン別では、当四半期の純増は専門金融サービス部門が 51%（2025 年度第 1 四半期は 60%）、LCL 部門が 21%（2025 年度第 1 四半期は 22%）、国際リテール・バンキング部門が 13%（2025 年度第 1 四半期は 16%）、大口顧客部門が 9%（2025 年度第 1 四半期は -6%）、コーポレート・センター部門は 3%（2025 年度第 1 四半期は 5%）を占めました。引当水準は、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一定率の調整を加えることによって決定されました。当該シナリオの重み付けは、中東の紛争とそのマクロ経済的影響を反映するため、2025 年第 4 四半期と比べて中程度の悪影響シナリオの重み付けを引き上げることで、2026 年度第 1 四半期に調整されています。2026 年度第 1 四半期の加重経済シナリオは前四半期に使用したものと同じです。2026 年度第 1 四半期には、残高に対するリスク関連費用がローリング 4 四半期ベース¹⁵で 38 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベース¹⁶で 38 ベーシス・ポイントとなりました（2025 年度第 1 四半期からそれぞれ 4 ベーシス・ポイントと 8 ベーシス・ポイント悪化）。

持分法適用会社の寄与は、ICG の初回連結の影響および資産運用部門に対する Victory Capital 関連の連結範囲変更の影響⁽¹⁷⁾などを含め、2025 年度第 1 四半期の 1 億 4,900 万ユーロに対して、2026 年度第 1 四半期に 2 億 4,200 万ユーロとなりました。CAPFM では、中古車販売の減少が Leasys に重くのしかかり、また GAC Sofinco に関して不利なベース効果がありました。よって、非継続事業と非支配持分控除前の**税引前利益**は 1.1%増加して 19 億 1,600 万ユーロとなりました。**税金費用**は 7 億 9,000 万ユーロとなり、前年比で安定的でした。**非支配持分控除前の純利益**は 1.1%増加して 19 億 1,600 万ユーロとなりました。**非支配持分**は 2026 年度第 1 四半期、3.5%減少し、2 億 4,100 万ユーロとなりました。

¹⁵ ローリング 4 四半期のリスク関連費用／残高（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

¹⁶ 年換算のリスク関連費用／残高（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

¹⁷ アムンディの ICG 持分の初回連結による一時的な影響（8,500 万ユーロ）と Victory Capital の連結範囲変更の影響（3,100 万ユーロ）

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の活動及び業績の分析

アセット・ギャザリング部門の活動

2026 年 3 月末時点のアセット・ギャザリング（AG）部門の運用資産は、当四半期中の不利な市場の影響で一部相殺されたものの、とりわけアセット・マネジメントと保険での純資金流入により、前四半期と比べて 240 億ユーロ（0.8%）増加し、合計 3 兆 750 億ユーロとなりました。前年同期比では、運用資産は 1,980 億ユーロ（6.9%）増加しました。

保険事業（クレディ・アグリコル・アシュアランス）は非常に好調に推移し、総収益は 170 億ユーロと過去最高水準で、2025 年度第 1 四半期に比べて 14.5%増加¹⁸しました。

貯蓄・退職保険部門では、2026 年度第 1 四半期の収益は 126 億ユーロに達し、2025 年度第 1 四半期と比べて 16.0%増加しました。これは、フランスの家計の貯蓄率、地域銀行向けの 100%セルフケアの新保険 Oriance の発売（2 月 23 日に発売された商品がわずか 1 か月余りで 10 万件的契約締結）、それにユーロ支払いに関する保険契約者利益分配の優遇措置の再開が原動力となりました。総流入額は、ユニット・リンク型商品（17.3%）とユーロ建て商品（15.3%増）で勢いが明確にみられます。総流入額に占めるユニット・リンク型商品の比率¹⁹は 34.7%と、2025 年度第 1 四半期比で上昇しました（0.4 ポイント上昇）。純流入額はさらに大幅に伸び、過去最高の 57 億ユーロ（2025 年度第 1 四半期比で 18 億ユーロ増）となりました。そのうち、ユーロ建てファンドの純流入額が 30 億ユーロ、ユニット・リンク型商品に関する純流入額が 27 億ユーロでした。

運用資産（貯蓄、退職、及び葬儀保険）は引き続き増加し、3,781 億ユーロ（前年同期比 257 億ユーロ増、7.3%増、また 2025 年 12 月比 50 億ユーロ増、1.4%増）となりました。市場効果はマイナス 7 億ユーロでした。運用資産残高に占めるユニット・リンク型商品の比率は 30.8%で、2025 年 3 月末比で 0.8 パーセント・ポイント上昇し、2025 年 12 月末比で 0.4 パーセント・ポイント低下しました。

損害保険事業では、2026 年度第 1 四半期の保険料収入は 29 億ユーロと、2025 年度第 1 四半期と比べて 10.0%増加²⁰しました。平均保険料は、気候変動や修繕費の上昇に伴う料率引上げと商品構成の変化によるプラスの価格効果から恩恵を受けました。契約ポートフォリオは 2026 年 3 月末時点で 1,800 万件となりました（前年比 7.3%増²¹）。クレディ・アグリコル・グループの銀行の個人顧客間のクロスセル・レートは、前年比で地域銀行（44.9%、0.7 パーセント・ポイント増）、LCL（28.7%、0.7 パーセント・ポイント増）、CA イタリア（21.1%、0.8 パーセント・ポイント増）において引き続き上昇しました。最後に、2026 年 3 月末のコンバインドレシオは、第 1 四半期における高水準の気候関連の保険金により、95.7%²²と前年比で 2.5 パーセント・ポイント上昇しました。

死亡・高度障害、債権者及び団体保険では、2026 年度第 1 四半期の保険料収入は 15 億ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期から 10.7%増加²³しました。個人死亡・障害保険は、平均保証額の増加に伴い 8.5%²⁴増加しました。債権者保険は、PiùVera Assicurazioni と PiùVera Protezione の連結などにより、8%増加しました。連結範囲調整後の比較可能ベースでは、安定的でした（2025 年度第 1 四半期比 0.5%増）。団体保険は、特に 2025 年 7 月 1 日の IEG 契約の発効に伴い、急増しました（2025 年度第 1 四半期比 28.7%増）。

資産運用（アムンディ）では、アムンディの運用資産は、2026 年 3 月末時点で過去最高の 2 兆 3,980 億ユーロに達し、前期比 0.8%増、前年比 6.7%増となりました。

¹⁸ 連結範囲調整後の比較可能ベース（Abanca SG、PiùVera Assicurazioni、PiùVera Protezione を除く）では、総収益は 13.6%増

¹⁹ 国内基準による

²⁰ 連結範囲調整後の比較可能ベース（Abanca SG と PiùVera Assicurazioni を除く）では、収益は 7.5%増

²¹ 連結範囲調整後の比較可能ベース（Abanca SG と PiùVera Assicurazioni を除く）では、保険ポートフォリオは 1,720 万件で、2025 年 3 月末と比べて 2.3%増

²² 割引を含め、割戻を除いた再保険料控除後のフランスの損害保険（Pacifica）のコンバインドレシオは、総経過保険料に対する（保険金+営業費用+手数料収入）。割引の効果を除いたコンバインドレシオは 99.0%（前年比+3.1 パーセント・ポイント）

²³ 連結範囲調整後の比較可能ベース（Abanca SG、PiùVera Assicurazioni、PiùVera Protezione を除く）では、収益は 5.8%増

²⁴ 連結範囲調整後の比較可能ベース（PiùVera Protezione を除く）では、収益は 6.9%増

運用資産に寄与したのは、当四半期の高水準の資金流入（320 億ユーロ、年換算では 2025 年 12 月末比で 5%の資金流入）で、140 億ユーロのマイナスの市場及び為替効果を補いました。

資産クラス別では、JV（ジョイント・ベンチャー）や Victory Capital を除くと、純流入の原動力となったのは 310 億ユーロの中長期の純資金流入（年換算で 7%増）で、ETF や指数ベースのソリューションへの大幅な資金流入（+240 億ユーロ）、債券／クレジットや多様な戦略が原動力となったアクティブ運用（+70 億ユーロ）、それにプライベート・アセット（+30 億ユーロ）が寄与しました。

顧客別では、リテール、機関投資家、それにジョイント・ベンチャーの純資金流入はプラスとなりました。リテール・セグメント（+132 億ユーロ）では、第三者の流通業者の高い勢いの継続（+224 億ユーロの過去最高の純流入）が純流入に寄与し、UniCredit のネットワークの 90 億ユーロの流出を補いました。機関投資家セグメントでは、退職貯蓄の勢いが原動力となり、第 1 四半期に 157 億ユーロの純流入となりました。最後に、関連会社セグメント（JV と Victory Capital を含む）は、中国およびインド市場の低迷やルピーの為替レート下落にもかかわらず、当四半期に 31 億ユーロの純流入となりました。

ウェルス・マネジメントでは、総運用資産（CA インドスエズ・ウェルス・マネジメントと LCL プライベート・バンキング）は 2026 年 3 月末現在で 2,990 億ユーロとなり、2025 年 3 月末から 7.4%増加し、2025 年 12 月末から 0.2%増加しました。

インドスエズ・ウェルス・マネジメントでは今四半期、BNP Paribas のモナコにおける Wealth Management の顧客の獲得が完了しました。Degroof Petercam の統合に関するシナジーの向上率は 40% でした。

インドスエズ・ウェルス・マネジメントの 2026 年 3 月末の運用資産は、プラスの純流入額とモナコにおける BNPP のポートフォリオの統合（合計で +25 億ユーロ）により、為替レートの悪影響や市場の影響にもかかわらず、2025 年 12 月末から 0.4%増加して 2,340 億ユーロ⁽²⁵⁾となりました。商業活動は当四半期に大幅に増加し、特に当四半期中の市場ボラティリティを原動力として取引利益は 2025 年度第 1 四半期比で 10%増加し、貸付残高は 16%増加しました。

運用資産は 2025 年 3 月末比で 206 億ユーロ（9.7%）増加しましたが、これは純資金流入、79 億ユーロに上る BNP Monaco から取得した運用資産の影響、Banque Thaler の統合の影響（2025 年度第 3 四半期に +33 億ユーロ）、それに当四半期おおむねプラスの市場及び為替効果が原動力となりました。

アセット・ギャザリング部門の業績

2026 年度第 1 四半期のアセット・ギャザリング部門の収益は 19 億 6,000 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期に比べて 4.8%減少（同一条件下では増加⁶⁾）しました。経費は 2025 年度第 1 四半期比 1.8%減の 9 億 1,900 万ユーロ（同一条件ベース⁶⁾では増加）、営業総利益は同 7.3%減の 10 億 4,000 万ユーロとなりました。2026 年度第 1 四半期のコスト比率は、前年同期比で 1.5 パーセント・ポイント上昇し、46.9%となりました。持分法適用会社の寄与は、3,100 万ユーロの Victory Capital 寄与と ICG の初回連結に伴う 8,500 万ユーロのプラスの影響がとりわけ原動力となり、2025 年度第 1 四半期の 2,800 万ユーロに対して、1 億 4,400 万ユーロとなりました。その結果、2026 年度第 1 四半期の税引前利益は 2.4%増加し、11 億 6,600 万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分は 3.0%増の 7 億ユーロとなりました。

2026 年度第 1 四半期、アセット・ギャザリング部門はクレディ・アグリコル S.A.の主力事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 38%に寄与し、収益の 27%に寄与しました。

2026 年 3 月 31 日現在で同部門に配分された自己資本は 149 億ユーロで、この内訳は、保険が 116 億ユーロ、資産運用が 23 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 10 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェ

²⁵ 機関投資家顧客のカストディ資産を除く

イト資産は 552 億ユーロで、この内訳は、保険が 256 億ユーロ、資産運用が 209 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 88 億ユーロでした。

保険事業の業績

2026 年度第 1 四半期の保険事業の収益は 7 億 400 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期に比べて 3.2% 減少しました。収益については、2025 年度第 3 四半期にはスペインの事業体 Abanca Seguros Generales の統合、2025 年度第 4 四半期には死亡・高度障害、債権者、損害保険分野での Banco BPM、PiùVera Assicurazioni、それに PiùVera Protezione と共同のイタリア事業体が寄与しました。この 3 つの事業体は当四半期の収益に 1,750 万ユーロの影響を及ぼしました。為替変動の影響を除くと、収益高は気候関連の保険金（フランスおよびポルトガルでの暴風雨と洪水）の増加により 5.6% 減少しましたが、損害保険セグメントでは過年度に関する有利な決済により一部相殺されました。退職貯蓄は、市況の悪影響はあったものの、販売の力強い伸びにより収益が増加しました。当四半期の保険事業の収益の内訳は、貯蓄・退職金保険及び葬儀保険が 5 億 2,000 万ユーロ²⁶、個人保障が 1 億 500 万ユーロ²⁷、損害保険が 8,900 万ユーロ²⁸でした。

2026 年 3 月末時点の契約上のサービスマージン（CSM）は合計で 270 億ユーロとなり、2025 年 3 月末に比べて 4.6% 増加し、2025 年 12 月末に比べて 1.9% 減少しました。今四半期は、CSM の配分を上回る新規事業の寄与による恩恵を受けましたが、市況の変動がポートフォリオの再評価にマイナスの影響を及ぼしました。

当四半期の帰属不能の費用は 1 億 800 万ユーロで、2025 年度第 1 四半期から 12.6% 増加しました。この増加は、主に Banco BPM との共同でのイタリアの事業体の統合と Abanca SG による 700 万ユーロの影響によるものです。これにより、**営業総利益**は 5 億 9,600 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 5.5% 減少しました。**税引前純利益**は 5.6% 減の 5 億 9,600 万ユーロとなりました。税金費用は 1 億 7,200 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期比で 1,800 万ユーロ減少しました。**純利益グループ帰属分**は、2025 年度第 1 四半期比で 3.9% 減の 4 億 2,200 万ユーロでした。

保険事業は、2026 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A. の事業部門（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 23% に寄与し、（コーポレート・センター部門を除いた）収益の 10% に寄与しています。

資産運用の業績

2026 年度第 1 四半期の収益は 8 億 1,400 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期に比べて 8.8% 減少しました。アムンディ US の連結除外⁽²⁹⁾および ICG の影響⁽³⁰⁾の修正再表示後では、収益は 2025 年度第 1 四半期と比べて 9.9% 増加しています。純運用報酬・手数料収入は、運用資産の増加が原動力となり、商品構成および顧客構成の変化による利鞘の微減にもかかわらず、2025 年度第 1 四半期に比べて 6% 増加（連結範囲変更の影響を除く）しました。アムンディ・テクノロジーの収益は、2025 年度第 1 四半期と比べて 21% 増加となりました。成果報酬は 8,700 万ユーロとなりました。**営業費用**は 4 億 6,700 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 6% 減少しました。アムンディ US の連結除外の影響⁽³¹⁾を除くと、営業費用は営業利益の増加や投資の継続に伴い、8.7% 増加しました。コスト比率は 57.3% に上昇しました（2025 年度第 1 四半期に比べて 1.7 パーセント・ポイント上昇）。ICG の影響を除くと、52.9% となりました。**営業総利益**は 3 億 4,800 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 12.2% 減少しました。ICG の影響の修正再表示後では、5% 増加しています。**持分法適用会社の寄与**は、アムンディのアジアのジョイント・ベンチャーの寄与（2,900 万ユーロ、4% 増加、インド・ルピーの下落が影響）、

²⁶ 契約上のサービスマージン（CSM）、損失項目及びリスク調整（RA）の配分額や再保険を除いた営業差異など

²⁷ CSM、損失項目及び RA の配分額や再保険を除いた営業差異など

²⁸ 再保険費用控除後（業績を含む）

²⁹ 2025 年度第 1 四半期のアムンディ US の連結除外に伴う連結範囲変更の影響：収益が 9,000 万ユーロ、費用が 6,700 万ユーロ

³⁰ ICG の 1 回限りの影響：有価証券評価に関連して収益が 6,800 万ユーロ、初回連結の影響に関連して持分法適用による利益が 8,500 万ユーロ

³¹ 2025 年度第 1 四半期のアムンディ US の連結除外に伴う連結範囲変更の影響：収益が 9,000 万ユーロ、費用が 6,700 万ユーロ

Victory Capital からの新規寄与（3,100 万ユーロ、シナジーの実現が寄与）、それに ICG の初回連結の影響（8,500 万ユーロ⁽³²⁾）などで、1 億 4,400 万ユーロとなりました。その結果、**税引前利益**は 4 億 8,900 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期から 16.5%増加しました。税金費用は 1 億 5,100 万ユーロでした（2025 年度第 1 四半期は 1 億 4,500 万ユーロ）。非支配持分は当期、1 億 1,400 万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分は、2025 年度第 1 四半期と比べて 21.8%増の 2 億 2,300 万ユーロでした。

資産運用は、2026 年 3 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業部門（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 12%に寄与し、収益の 11%に寄与しました。

ウェルス・マネジメントの業績³³

2026 年度第 1 四半期、ウェルス・マネジメントの**収益**は 4 億 4,100 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期から 0.6%微増しました。当該収益は手数料収入の増加（2025 年第 1 四半期比 6%増）が原動力となりましたが、純受取利息は金利低下を背景にわずかながら減少しました。また、連結範囲変更の影響は全体ではマイナスで、Degroof Petercam の業務の移管（CACEIS による預託銀行業務の再開とクレディ・アグリコル CIB との市場業務の再編）は Banque Thaler の事業の買収（850 万ユーロ増）により一部相殺されました。当四半期の**経費**は、統合費用の影響⁽³⁴⁾や連結範囲変更の影響⁽³⁵⁾を考慮すると、2025 年度第 1 四半期比 0.3%増の 3 億 4,500 万ユーロとなりました。これらの項目の修正再表示後では、経費は 2025 年度第 1 四半期と比べて 1.0%減となりました。2026 年度第 1 四半期の**コスト比率**は、前年同期比で 0.2 パーセント・ポイント微減し、78.2%となりました。統合費用を除くと、75.3%でした。**営業総利益**は 9,600 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 1.3%増加しました。**リスク関連費用**は当四半期、1,400 万ユーロでした。**純利益グループ帰属分**は、2025 年度第 1 四半期比で 4.9%減の 5,500 万ユーロとなりました。

ウェルス・マネジメントは、2026 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業部門（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 3%に寄与し、（コーポレート・センター部門を除いた）収益の 6%に寄与しています。

大口顧客部門の活動

2026 年度第 1 四半期には、**法人営業及び投資銀行部門（CIB）**の良好な業績と**資産運用サービス部門**の活発な事業活動により、大口顧客部門の事業活動は良好でした。

2026 年度第 1 四半期に、法人営業及び投資銀行部門の収益は 18 億 1,200 万ユーロに減少し、2025 年度第 1 四半期に比べて 4.0%減（為替の影響を除くと 0.3%減）となりました。**資本市場及び投資銀行業務**の収益は、模様眺めの市場のなかで資本市場業務で 9.0%減少（為替の影響を除くと 6.4%減少）し、投資銀行部門のストラクチャード・エクイティ、M&A およびエクイティ・キャピタル市場業務で 26.9%増（為替の影響を除くと 29.4%増）と高い勢いのなか、2025 年度第 1 四半期比で 2.2%減（為替の影響を除くと 0.4%増）の 9 億 9,500 万ユーロに減少しました。**ファイナンス業務**の収益は、アセット・ファイナンスが好調であった 2025 年度第 1 四半期を受けてストラクチャード・ファイナンスでは 8.3%減（為替の影響を除くと 3.7%減）、商業銀行事業では 4.8%減（為替の影響を除くと 0.3%増と安定的）となり、資金管理事業と輸出ファイナンス事業の好業績が補ったものの、地政学的情勢に伴う LBO 業務の減速を反映して、2025 年度第 1 四半期比 6.0%減（為替の影響を除くと 1.1%減）の 8 億 1,700 万ユーロとなりました。

³² ICG の 1 回限りの影響：有価証券評価に関連して収益が 6,800 万ユーロ、初回連結の影響に関連して持分法適用による利益が 8,500 万ユーロ

³³ インドスエズ・ウェルス・マネジメントの連結範囲

³⁴ 2026 年度第 1 四半期の統合費用は前年同期の 1,270 万ユーロ（Degroof Petercam）に対して 1,260 万ユーロ（Degroof Petercam, Banque Thaler, BNP Paribas のモナコのポートフォリオ）

³⁵ Banque Thaler（-520 万ユーロ）の影響、CACEIS による預託業務の再開、および BNP Paribas のモナコの顧客ポートフォリオの取得（+70 万ユーロ）

クレディ・アグリコル CIB は、ユーロ建てグリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナブルボンドで第 2 位⁽³⁶⁾、世界全体のすべてのユーロ建債で第 3 位³⁶ となり、シンジケート・ローンにおける強い地位（フランスで第 3 位⁽³⁷⁾、EMEA で第 5 位⁽³⁷⁾）を確認しました。2026 年度第 1 四半期の規制上の VaR の平均は、地政学的な緊張と不透明性を背景に 920 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期の 970 万ユーロからわずかながら減少しました。慎重なリスク管理を反映した水準で推移しました。

資産運用サービス事業では、新規顧客の獲得と、2025 年第 2 四半期の Degroof Petercam の事業買収による連結範囲変更の影響が 2025 年度第 1 四半期比での事業成長の原動力となりました。

カストディ資産は 2026 年 3 月末時点で、2025 年 12 月末比 3.9%増、2024 年 3 月末比 12%増の 6 兆 1,260 億ユーロとなりました。管理資産も 2026 年 3 月末時点で、前四半期比 3.4%増、前年同期比 7.1%増の 3 兆 8,300 億ユーロとなりました。受渡決済金額は、フランス、ドイツ、ルクセンブルクなどが原動力となり、市場が不安定ななか、2025 年度第 1 四半期比で 22%増と大幅に増加しました。

大口顧客部門の業績

2026 年度第 1 四半期には、法人営業及び投資銀行部門の 2025 年度第 1 四半期に記録した過去最高に近い収益と資産運用サービス部門の過去最高水準の収益により、**大口顧客部門の収益**は 23 億 5,800 万ユーロとなり、過去最高水準となった 2025 年度第 1 四半期比では 2.1%減少しました。

営業費用は、2025 年度第 1 四半期比で 3.1%減少しました。これは法人営業及び投資銀行部門での為替の好影響と変動報酬の減少に加えて、ISB の統合費用の終了⁽³⁸⁾と資産運用サービス部門のシナジーの本格的な効果が原動力となりました。その結果、同部門の**営業総利益**は 10 億 4,000 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 0.7%減少しました。同部門はリスク関連費用について、4,900 万ユーロの引当金を計上しました。これに対して、2025 年度第 1 四半期は 2,500 万ユーロの引当金を戻し入れています。2026 年度第 1 四半期の税引前利益は 2025 年第 1 四半期比 7.3%減の 9 億 9,900 万ユーロとなり、税金費用は 2 億 7,600 万ユーロとなりました。最後に、2026 年度第 1 四半期の**純利益グループ帰属分**は 2025 年度第 1 四半期から 1.7%と微減の 7 億 1,100 万ユーロになりました。これは、2025 年度第 3 四半期に完了した、クレディ・アグリコル S.A.によるサンタンデル保有の非支配持分（30.5%）の取得を考慮しています。

大口顧客部門は、2026 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**純利益グループ帰属分**の 38%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**収益**の 32%に寄与しています。

2026 年 3 月 31 日現在、同部門に**配分された資本**は合計 158 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 1,439 億ユーロでした。

法人営業及び投資銀行部門の業績

2026 年度第 1 四半期、法人営業及び投資銀行部門の**収益**は 18 億 1,200 万ユーロで、過去最高を更新した 2025 年度第 1 四半期に比べて 4.0%減少しましたが、為替の影響を除くと同程度となりました（2025 年度第 1 四半期に比べて 0.3%減と安定的）。**営業費用**は 9 億 6,400 万ユーロで、2.8%減少しました（為替影響を除くと 0.1%増と安定的）。また、変動報酬の減少が考慮されています。**営業総利益**は 8 億 4,800 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 5.2%減少しました。コスト比率は 53.2%となり、前四半期比 0.6 パーセント・ポイント上昇しました。当四半期の**リスク関連費用**は、主に中東の紛争に伴うステージ 1 及びステージ 2 の追加関連費用で、3,200 万ユーロと低水準にあります。これにより、2026 年度第 1 四半期の**税引前利益**は 2025 年度第 1 四半期比 11.1%減の 8 億 1,600 万ユーロとなりました。この結果、2026 年度第 1 四半期の**表示純利益グループ帰属分**は、11.8%減の 5 億 7,100 万ユーロとなりました。また、合成型証券化プログラムで RWA が 2026 年度第 1 四半期に 16 億ユーロ増加しました。

³⁶ Bloomberg（ユーロ建て）

³⁷ Refinitiv LSEG

³⁸ ISB 統合費用：2026 年度第 1 四半期は 100 万ユーロ未満、これに対して 2025 年第 1 四半期は 900 万ユーロ

資産運用サービスの業績

2026 年度第 1 四半期の資産運用サービスの収益は、運用資産及び資金移動業務の手数料収入の増加が原動力となり、2025 年度第 1 四半期比 4.8%増の 5 億 4,600 万ユーロとなりました。純受取利息は安定的に推移しました。営業費用は ISB の統合に関連する費用⁽³⁹⁾の減少と本格的なシナジーの効果により、3.9%減の 3 億 5,400 万ユーロとなりました。その結果、2026 年度第 1 四半期の営業総利益は 25.5%増加し、1 億 9,200 万ユーロに急増しました。コスト比率は、2025 年度第 1 四半期と比べて 5.8 パーセント・ポイント低下し、64.8%となりました。リスク関連費用は法定的リスクの引当金の追加により、純額で 1,700 万ユーロの引当となりました。2026 年度第 1 四半期の税引前利益は 14.6%増加し、1 億 8,300 万ユーロとなりました。2026 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、2025 年度第 1 四半期から 86.1%と非常に大幅に増加しました。これは、2025 年度第 3 四半期に完了した、クレディ・アグリコル S.A.によるサンタンデール保有の 3,500 万ユーロの非支配持分を考慮しています。

専門金融サービス部門の活動

クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス&モビリティ（CAPFM）の商業組成は合計 114 億ユーロ（2025 年度第 1 四半期比 3.5%増）となりました。全事業部門で組成は底堅く推移しました。自動車事業は、依然として不利な市場環境（Leasys の組成は減少する一方、CA Auto Bank の組成は増加、中国の組成は減少）の影響を引き続き受けています。組成の平均顧客向け金利は 2025 年度第 4 四半期から 7 ベーシス・ポイント増と、上昇しました⁽⁴⁰⁾。これにより、CAPFM の運用資産は 2026 年 3 月末時点で 1,230 億ユーロとなり、消費者金融（国際事業がけん引）と当グループのネットワークで増加し、自動車分野では安定的でした（Crédit Agricole Auto Bank で減少、中国では Leasys で増加）。最後に、2026 年 3 月末時点の連結残高は 676 億ユーロとなり、2025 年 3 月末に比べて 1.5%減少し、2025 年 12 月末に比べて安定的に推移しました。

クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング（CAL&F）の商業組成は、フランスでの不利な環境のなか、リース部門で 2025 年度第 1 四半期比で 1.3%減少しましたが、国際事業ではすべての事業体で伸びました。さらに、2025 年度第 4 四半期以降は、Merca Leasing の統合も寄与しました。リース残高は前年同期比 8.0%増となり、フランス国内と国外ともに増加しました（フランス国内が 6.1%増、国外が 14.9%増）。前四半期以降は、Merca Leasing の残高が含まれています。2026 年 3 月末時点のリース残高は 220 億ユーロ（うちフランス国内が 170 億ユーロ、国外が 50 億ユーロ、Merca Leasing のリース残高の寄与が 5 億ユーロ）となりました。ファクタリングの商業組成は今四半期、大型案件が原動力となり好調で、2025 年度第 1 四半期に比べて 53%増加しました。2026 年 3 月末現在のファクタリング残高は 2025 年 3 月末比で 2.6%増加し、ファクタリング収益は前年同期比 5%増加しました。

専門金融サービス部門の業績

専門金融サービス部門の 2026 年度第 1 四半期の収益は 8 億 6,700 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期比で 0.2%減少しました。経費は 4 億 7,700 万ユーロで、2025 年度第 1 四半期と比べて 0.8%の微増となりました。コスト比率は、2025 年度第 1 四半期と比べて 0.5 パーセント・ポイント上昇し、55.1%となりました。これにより、営業総利益は 3 億 8,900 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 1.3%減少しました。リスク関連費用は、CAPFM の 1,700 万ユーロの法的引当金の増加（英国の自動車ローン）などにより、2025 年度第 1 四半期比で 11.5%増の 2 億 7,800 万ユーロとなりました。持分法適用会社からの利益は 100 万ユーロで、3,600 万ユーロであった 2025 年度第 1 四半期に比べて大幅に減少しました。これは、CAPFM を中心に、Leasys の中古車販売益の減少（Leasys の寄与はマイナス 600 万ユーロ）と中国市場に関連する不利なベース効果が影響しました。専門金融サービス部門の税引前利益は 1 億 1,000 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期の 1 億 8,200 万ユーロから減少しました（39.3%減）。純利益グループ帰属分は、1 億 4,800 万ユーロであった 2025 年度第 1 四半期比で 52.4%減の 7,100 万ユーロでした。

専門金融サービス部門は、2026 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 4%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた収益の 12%に寄与しています。

³⁹ ISB 統合費用：2026 年度第 1 四半期は 100 万ユーロ未満、これに対して 2025 年第 1 四半期は 900 万ユーロ

⁴⁰ 自動車関連のジョイント・ベンチャーを除く

2026 年 3 月 31 日現在、同部門に**配分された資本**は 89 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 807 億ユーロでした。

消費者金融及びモビリティの業績

2026 年度第 1 四半期の CAPFM の収益は 6 億 8,300 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期に比べて 0.1%増と安定的でした。価格効果が消費者金融及びモビリティ事業に好影響を及ぼしましたが、CAAB および Drivalia の使用車両の残存価値の見直しにより相殺されました。**経費**は 1.2%減少し、3 億 6,500 万ユーロとなりました。これには、Crédit Agricole Deutschland および Crédit Agricole Savings のプロジェクトに関する 180 万ユーロの投資が含まれます。その結果、**営業総利益**は 3 億 1,800 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 1.6%増加しました。**コスト比率**は、2025 年度第 1 四半期と比べて 0.7 パーセント・ポイント改善し、53.5%となりました。**リスク関連費用**は、2025 年度第 1 四半期比 12.8%増の 2 億 5,400 万ユーロでした。また、注目すべきこととして 2026 年度第 1 四半期に債権ポートフォリオが処分されました。これにより、**残高に対するリスク関連費用**は、1,700 万ユーロの法的引当金（英国の自動車ローン）の再度の追加を含め、2025 年度第 4 四半期比で 15 ベーシス・ポイント低下し、148 ベーシス・ポイント⁴¹となりました。2026 年 3 月末時点の不良債権比率は 4.8%となり、2025 年 12 月末に比べて安定的でしたが、不良債権引当率は、とりわけ 2026 年度第 1 四半期中の貸付金により、71.6%となり、2025 年 12 月末から 0.5 パーセント・ポイント低下しました。**持分法適用会社からの利益**は、Leasys の中古車販売益の減少（Leasys の寄与はマイナス 600 万ユーロ）と中国の GAC Sofinco の不利なベース効果が影響し、2025 年度第 1 四半期の 3,800 万ユーロに対して、100 万ユーロとなりました。**税引前利益**は 2025 年度第 1 四半期の 1 億 2,600 万ユーロに対して、6,200 万ユーロと大幅に減少しました。**純利益グループ帰属分**は、2025 年度第 1 四半期の 1 億 600 万ユーロに対して、3,200 万ユーロに減少しました。

リースとファクタリングの実績

2026 年度第 1 四半期、CAL & F の収益は 1 億 8,300 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期比で 1.0%減少しました。当該収益の微減は、前四半期以降の Merca Leasing の統合⁽⁴²⁾が一部補いました。**営業費用**は ACT 2028 に関連するフランス国内および国外の IT 経費及び投資のほか、Merca Leasing の統合⁴²⁴²が原動力となり、前四半期比で 8%増加し、1 億 1,200 万ユーロとなりました。**コスト比率**は、2025 年度第 1 四半期と比べて 5.1 パーセント・ポイント上昇し、61.1%となりました。**営業総利益**は 7,100 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 12.5%減少しました。**リスク関連費用**は 2026 年度第 1 四半期、2,300 万ユーロとなりました。Merca Leasing の統合⁴²⁴²にもかかわらず、前年同期比で 1.1%減と安定して推移しました。**残高に対するリスク関連費用**は、2025 年度第 1 四半期比で 2 ベーシス・ポイント低下し、24 ベーシス・ポイント⁴¹となりました。**持分法適用会社からの利益**は 2026 年度第 1 四半期、ゼロとなり、前年同期の 200 万ユーロの損失から改善しました。税引前利益は 4,800 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期比で 14.7%減少しました。**純利益グループ帰属分**は、2025 年度第 1 四半期比で 7.6%減の 3,900 万ユーロとなりました。

⁴¹ 年換算のリスク関連費用／残高は当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出

⁴² 2026 年度第 1 四半期の Merca Leasing の連結範囲変更の影響：収益でプラス 760 万ユーロ、経費でマイナス 250 万ユーロ、リスク関連費用でマイナス 90 万ユーロ

クレディ・アグリコル S.A. リテール・バンキング部門の活動

クレディ・アグリコル S.A. のリテール・バンキング部門のローン組成は、フランスでは今四半期に減少し、イタリアでは法人市場が原動力となり、好調でした。保険加入者数は伸びています。

フランスのリテール・バンキング部門の活動

2026 年第 1 四半期の LCL の顧客獲得総数は、LCL pro による 100% のデジタル・サービス L の展開（獲得顧客の 20% は専門家）が特に寄与し、約 79,000 人となりました。

ローン組成は 64 億ユーロとなり、住宅ローン（競争の激しい市場のなか 15% 減）を中心に 2025 年度第 1 四半期比 5.6% 減となりました。専門市場は安定していました（法人向けが 2.6% 減、中小企業向けが 5.8% 増）。

自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべてのモバイル機器保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは、当年度に 0.7 パーセント・ポイント上昇し、2026 年 3 月末で 28.7% になりました。

住宅ローンの平均組成率は 3.19% で、2025 年度第 4 四半期から 11 ベーシス・ポイント上昇し、2025 年度第 1 四半期比では 1 ベーシス・ポイント上昇しました。住宅ローンの残高率は前四半期比で 3 ベーシス・ポイント、前年比で 13 ベーシス・ポイント改善しました。

2026 年 3 月末時点の貸出残高は 1,734 億ユーロで、前四半期比で 0.3% 減、前年同期比で 1.5% 増となりました（うち住宅ローンが 0.6% 増、専門家向け貸付が 2.9% 増、企業向け貸付が 4.6% 増）。2026 年 3 月末時点の顧客資産は総額 2,616 億ユーロで、前年同期比 2.0% の増加となりました。これは、オフ・バランスシートの資金（生命保険とプラスの市場効果）などによるもので、バランスシートの貯蓄は非常にわずかながら減少しました（定期預金の減少）。

イタリアのリテール・バンキング部門の活動

2026 年度第 1 四半期、CA イタリアの総顧客獲得数は約 54,000 人となり、オンラインでの獲得数が 40% を占めました。

CA イタリアの 2026 年 3 月末の貸出残高は 625 億ユーロとなり、（イタリア市場⁴³に沿って）2025 年 3 月末と比べて 2.3% 増加しました。原動力となったのはリテール市場（貸出残高が 2.3% 増加）と中小企業を含む法人市場（残高が 4.6% 増加）でした。2026 年度第 1 四半期の残存ローン金利は、2025 年度第 4 四半期比で安定しました（1 ベーシス・ポイント上昇）。

ローン組成は 2026 年度第 1 四半期、法人向け市場での組成の倍増が原動力となり、前年同期と比べて 34% 増加しましたが、住宅ローン市場は特徴として激しい競争がみられました。

2026 年 3 月末の顧客資産は総額 1,218 億ユーロで、2025 年 3 月末から 3.0% 増加しました。オン・バランスシートの預金は、個人向け市場（要求払預金）を中心に 2025 年 3 月末から 1.9% 増加しました。最後に、オフ・バランスシートの預金は前年同期比で 4.2% 増加し、鈍化するもプラスの市場効果から恩恵を受けました。

自動車、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険及び傷害保険における CA イタリアのクロスセル・レートは 21.1% となり、2025 年度第 1 四半期と比べて 0.8 パーセント・ポイント上昇しました。

⁴³ 出典：イタリア銀行協会（ABI）、2026 年 4 月：貸出全体では 3 月、前年同月比 2.1% 増

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の活動

イタリアを除く国際リテール・バンキングの 2026 年 3 月末時点の貸付残高は 76 億ユーロで、2025 年 3 月末時点と比較して、現在の為替レートで 2.9%増となりました（為替変動の影響を除くと 8.0%増）。顧客資産は 2026 年度に 119 億ユーロ増加し、現在の為替レートで 0.8%減となりました（為替変動の影響を除くと 5.2%増）。

特にポーランドでは、貸付残高は 2025 年 3 月末比で 0.7%増加し（為替変動の影響を除くと 3.3%増）、オン・バランスシート預金は 1.8%減とわずかながら減少しました（為替変動の影響を除くと 0.7%増と安定）。ポーランドにおける今四半期のローン組成は 2025 年度第 1 四半期と比べて大幅に増加しました（現在の為替レートで 18.9%増、為替変動の影響を除くと 20.3%増）。また、ポーランドの顧客獲得総数は今四半期、5 万 5,000 人増となりました。

エジプトでは、すべての市場で商業活動が好調でした。貸付残高は 2025 年 3 月末から 2026 年 3 月末に 2.1%増加しました（為替変動の影響を除くと 17.5%増）。同期間のオン・バランスシートの預金は 9.6%増加し、為替変動の影響を除くと 26.1%増加しました。

ウクライナでは、貸付残高は 2025 年 3 月末から 2026 年 3 月末に 24.6%増加しました（為替変動の影響を除くと 40.4%増）。同期間のオン・バランスシートの預金は現在の為替レートで 3.1%減とわずかながら減少しましたが、為替変動の影響を除くと 9.2%増加しました。

流動性に関しては、2026 年 3 月 31 日現在、ポーランド、エジプトおよびウクライナへの貸付による純資金流入が 36 億ユーロとなりました。

フランスのリテール・バンキングの業績

2026 年度第 1 四半期の LCL の収益は 10 億 4,200 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期に比べて 8.2%増加しました。純受取利息は、調達資金コストの低下（顧客預金構成の正常化と金利効果）とローン金利の段階的な見直しが原動力となり、当四半期に好転しました（13.1%上昇）。手数料収入の増加（2025 年度第 1 四半期比で 3.7%増）は、貯蓄と非生命保険の力強い勢いが原動力となりました。

経費は、とりわけ転換計画「Energies 2030」と人件費に関連し、6.8%増の 6 億 6,800 万ユーロとなりました。コスト比率は、2025 年度第 1 四半期と比べて 0.8 パーセント・ポイント低下し、64.1%となりました。その結果、営業総利益は 10.8%増加し、3 億 7,400 万ユーロとなりました。

リスク関連費用は 1 億 1,200 万ユーロ（2025 年度第 1 四半期比 23%増）となりました（内訳は、確認済みリスク関連費用が 1 億 2,900 万ユーロ、正常債権に対するリスク関連費用が 1,500 万ユーロの戻入れ）。残高に対するリスク関連費用は年換算ベースで、法人（小売、流通および運輸セクター）に関する個別のリスクの上昇が原動力となり、2025 年度第 1 四半期に比べて上昇し 26 ベーシス・ポイントとなりました。不良債権引当率は 2026 年 3 月末で 56.9%と、高水準を維持しています。2026 年 3 月末の不良債権比率は 2.4%でした。

最後に、税引前利益は 2 億 6,200 万ユーロで、2025 年度第 1 四半期と比べて 6.2%増加し、純利益グループ帰属分は 2025 年度第 1 四半期と比べて 11.0%増加しました。

当事業部門は、2026 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 8%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた収益の 14%に寄与しています。

2026 年 3 月 31 日時点で、当事業部門に配分された資本は合計 65 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 587 億ユーロでした。

国際リテール・バンキングの業績⁴⁴

2026 年度第 1 四半期には、国際リテール・バンキング部門の収益は 10 億 4,100 万ユーロとなり、2025 年度第 4 四半期に比べて増加しました（現在の為替レートで 1.5%増加、為替変動の影響を除くと 2.8%増加）。営業費用は 5 億 1,500 万ユーロとなり、現在の為替レートでは安定的でした（為替変動の影響を除くと 1.0%増）。その結果、営業総利益は合計 5 億 2,600 万ユーロとなり、当四半期に 3.0%増加しました（為替変動の影響を除くと 4.7%増）。リスク関連費用は 7,100 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 7.1%増加しました（為替変動の影響を除くと 5.7%増）。2026 年度第 1 四半期の CA イタリア、CA エジプト、CA ポーランド、CA ウクライナの全体の純利益グループ帰属分は 6.5%減（為替変動の影響を除くと 4.1%減）の 2 億 3,000 万ユーロで、イタリア⁽⁴⁵⁾、ポーランド⁽⁴⁶⁾、ウクライナ⁽⁴⁷⁾での税率引き上げの影響を含んでいます。

2026 年 3 月 31 日現在、国際リテール・バンキング部門に配分された資本は 57 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は合計 514 億ユーロでした。

イタリアの業績

2026 年度第 1 四半期のクレディ・アグリコル・イタリアの収益は、貯蓄管理の手数料収入が原動力となった手数料収入の増加（2025 年度第 1 四半期比 5.4%増）により、2025 年度第 1 四半期比 2.6%増の 7 億 9,800 万ユーロとなりました。純受取利息は安定し、2025 年度第 1 四半期比で 1.4%微増しました。営業費用は抑制され、2025 年度第 1 四半期比で 0.7%微増の 3 億 8,600 万ユーロとなりました。これにより、費用伸び率に対する収益の伸び率は 1.9 パーセント・ポイントのプラスとなりました。営業総利益は 4 億 1,100 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 4.5%増加しました。コスト比率は、2025 年度第 1 四半期と比べて 0.9 パーセント・ポイント改善し、48.5%となりました。

リスク関連費用は 2026 年第 1 四半期、2025 年度第 1 四半期比 7.0%減の 5,200 万ユーロとなり、残高に対するリスク関連費用⁽⁴⁸⁾は 3 ベーシス・ポイント改善して 33 ベーシス・ポイントとなりました。資産の質（不良債権比率は 2.7%）と不良債権引当率（82.0%）は健全な水準で、前四半期と比べて改善しました。CA イタリアの純利益グループ帰属分は 2025 年度第 1 四半期比 3.2%増の 1 億 8,400 万ユーロで、2026 年のイタリアの銀行と金融仲介機関に対する税率引上げ⁴⁵⁴⁵による 1,100 万ユーロのマイナスの影響を含んでいます。

2026 年 3 月 31 日時点で、当事業部門に配分された資本は合計 44 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 404 億ユーロでした。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の業績

2026 年度第 1 四半期には、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の収益は 2 億 4,300 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 1.9%減少（為替変動の影響を除くと 3.7%増）しました。ポーランドでの収益は、手数料収入が補ったが、中央銀行の政策金利引下げの影響による純受取利息がやや減少し、2025 年度第 1 四半期比で 1.6%減少（為替変動の影響を除くと 0.5%減少）しました。エジプトでの収益は、純受取利息が取引額の効果により為替変動の影響を除くと 1.8%増加し、手数料収入が大きな為替活動に伴い、為替変動を除くと 4.2%増加するなか、1.3%減少（為替変動の影響を除くと 7.4%増加）しました。イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の営業費用は 1 億 2,800 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 1.8%減少（為替変動の影響を除くと 2.0%増加）しました。国際リテール・バンキング部門（イタリアを除く）のコスト比率は 52.8%と 2025 年度第 1 四半期と比べて安定的でした。営業総利益は 1 億 1,500 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期と比べて 1.9%減少しました（為替変動の影響を除くと 5.6%増加）。リスク関連費用は 1,900 万ユーロ（2025 年度第 1 四半期には 1,000 万ユーロ）と低水準にとどまっています。さらに、2026 年 3 月末時点で、貸付残高の不良債権引当率はポーランドで 120%、エジプトで 133%と高水準にとどまっています。ウクライナでは、国内の

⁴⁴ 2026 年 3 月 31 日時点で、この範囲には CA イタリア、CA Polska、CA エジプト、CA ウクライナの事業体が含まれます。

⁴⁵ イタリア 2026 年予算法：法人税率を 2 パーセント・ポイントに引上げ、銀行と金融仲介機関の地方生産活動税（IRAP）の税率を従来の 4.65%から 6.65%に引上げ

⁴⁶ ポーランド：2026 年の税率は 30%、2025 年は 19%

⁴⁷ ウクライナ：2026 年の税率は 50%、2025 年は 25%

⁴⁸ 残高に対するリスク関連費用（年換算の四半期ベースでベーシス・ポイント単位）

不良債権引当率は引き続き慎重な水準（693%）となっています。この結果、**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**は純利益グループ帰属分に 4,600 万ユーロ寄与し、現在の為替レートで 32.2%減少し、為替変動の影響を除くと 25.6%減少しました。

2026 年 3 月 31 日時点で、**リテール・バンキング事業部門全体**では、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 20%、コーポレート・センター部門を除く収益の 29%に寄与しました。

2026 年 3 月 31 日現在、同部門の**資本**は 122 億ユーロでした。また、**リスク・ウェイト資産**は合計 1,101 億ユーロとなりました。

コーポレート・センターの業績

2026 年度第 1 四半期のコーポレート・センター部門の**純利益グループ帰属分**はマイナス 1 億 7,900 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期から 1 億 100 万ユーロ改善しました。コーポレート・センター部門の寄与は、「構造的」寄与（マイナス 1 億 8,500 万ユーロ）とその他の項目（今四半期プラス 600 万ユーロ）に区別して分析することができます。

「構造的」部分の寄与（マイナス 1 億 7,900 万ユーロ）は 2025 年度第 1 四半期と比べて 4,700 万ユーロ改善し、その内訳は次の 3 事業に分けられます。

- **親会社クレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターの事業及び機能**の寄与は、経費に対するプラスのベース効果（IFRIC 解釈指針での税金）も寄与し、2026 年度第 1 四半期にマイナス 2 億 8,100 万ユーロとなり、前年同期比で 3,300 万ユーロ改善しました。
- **CACIF（未公開株式）、CA イモビリエ、CATE、BforBank（持分法適用）など中核事業部門に含まれない事業、及びその他の投資（Banco BPM を含む）**の寄与は 2026 年度第 1 四半期に 9,200 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期比で 1,900 万ユーロ増加しました。2026 年度第 1 四半期には、Banco BPM の持分法適用投資の 1 億 1,100 万ユーロの寄与が含まれており、Banco BPM の持分は 22.9%に増加しました。
- 最後に、**グループ支援機能**の寄与は当四半期、400 万ユーロとなり、2025 年度第 1 四半期比で 400 万ユーロ減少しました。

「その他の項目」の寄与は、主にボラティリティ要因のプラスの影響により、2025 年度第 1 四半期と比べて 5,400 万ユーロ改善し、600 万ユーロとなりました。

2026 年 3 月 31 日現在、**リスク・ウェイト資産**は 426 億ユーロでした。

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループの支払能力は欧州のグローバルなシステム上重要な銀行のなかで最高水準にあります。

クレディ・アグリコル・グループの自己資本比率は規制要件を大きく上回って推移しています。2026 年 3 月 31 日時点で、クレディ・アグリコル・グループの段階適用の普通株式等 Tier 1 レシオ（CET1）は 17.1%で、規制要件を 6.7 パーセンテージ・ポイント上回っており、十分な余裕があります。

CET1 レシオは前四半期比で 0.2 パーセント・ポイント低下しました⁽⁴⁹⁾。この変動は以下などを反映しています。

- 留保利益に関連する 23 ベーシス・ポイントのプラスの影響
- 事業部門の内生成長に伴うリスク・ウェイト資産の増加に関連する 24 ベーシス・ポイントのマイナスの影響
- 合併および買収に関連するマイナス 7 ベーシス・ポイントの悪影響
- マイナス 7 ベーシス・ポイントの方法論およびモデリングの影響
- 最後に、その他の包括利益（OCI）および様々な影響によるマイナス 4 ベーシス・ポイントの寄与

クレディ・アグリコル S.A.は、クレディ・アグリコル・グループの中心的組織として、グループ内の法的連携体制と柔軟な資本循環から十分に利益を受けています。2026 年 3 月 31 日時点で、クレディ・アグリコル S.A.の段階適用の普通株式等 Tier 1 レシオ（CET1）は 11.4%で、規制要件を 2.6 パーセンテージ・ポイント上回っており、余裕があります。

今四半期の CET1 レシオの変動はいくつかの要因を反映しています。まず、留保利益に関連する 18 ベーシス・ポイントのプラスの影響による恩恵を受けました。この影響は、AT1 債券利息の控除後及び利益の 50%分配の控除後の純利益グループ帰属分に相当し、2026 年度第 1 四半期の 1 株当たり 26 ユーロの配当準備金に反映されています。

その一方で、事業部門の内生成長に伴い、リスク・ウェイト資産が増加し、CET1 レシオに 23 ベーシス・ポイントのマイナスの影響を及ぼしましたが、これはクレディ・アグリコル CIB（マイナス 14 ベーシス・ポイント）と第 1 四半期の保険事業の持分法適用額の上昇（マイナス 2 ベーシス・ポイント）などによるものでした。合併および買収も、Banco BPM の持分の増加（マイナス 14 ベーシス・ポイント）や ICG の初回連結（マイナス 2 ベーシス・ポイント）などにより、CET1 レシオを 17 ベーシス・ポイント押し下げました。

最後に、方法論が 11 ベーシス・ポイントの悪影響を及ぼし、証券ポートフォリオの未実現損益（OCI）の変動やその他の様々な影響が 6 ベーシス・ポイント押し下げました。

クレディ・アグリコル S.A.のリスク・ウェイト資産は、2026 年 3 月末には、135 億ユーロ増加して 4,330 億ユーロになりました。当四半期の増加は主に、当四半期の状況を反映した、大口顧客部門での 68 億ユーロの増加によるものです（為替影響による 10 億ユーロの増加と市場活動による 31 億ユーロの増加を含む）。リテール・バンキング部門では、とりわけ、2026 年度第 1 四半期にリスク・ウェイト資産（RWA）に再配分された 12 億ユーロの自己資本規制規則（CRR）3 の技術的調整により、26 億ユーロ増加しました。

クレディ・アグリコル・グループのリスク・ウェイト資産は 2026 年 3 月末、当四半期に 250 億ユーロ増加して、6,880 億ユーロになりました。当四半期の増加は主に、2026 年度第 1 四半期に RWA に再配分された自己資本規制規則（CRR）3 の技術的調整（プラス 107 億ユーロ）にとりわけ関連した 129 億ユーロの増加によるものでした。

⁴⁹ 2025 年 12 月 31 日時点のクレディ・アグリコル・グループの規制上のソルベンシーレシオの確定値で、CET1 は 17.3%

クレディ・アグリコル・グループの財務構造

	Crédit Agricole Group			Crédit Agricole S.A.		
	31/03/26	31/12/25*	Requirements 31/03/26	31/03/26	31/12/25*	Requirements 31/03/26
Phased-in CET1 ratio ⁵⁰	17.1%	17.3%	10.4%	11.4%	11.8%	8.7%
Tier1 ratio ⁵⁰	18.3%	18.5%	12.2%	13.2%	13.6%	10.6%
Total capital ⁵⁰	20.8%	20.9%	14.7%	16.9%	17.2%	13.0%
Risk-weighted assets (€bn)	688	663		433	419	
Leverage ratio	5.6%	5.5%	3.75%	3.8%	3.9%	3.0%
Leverage exposure (€bn)	2,246	2,214		1,493	1,463	
TLAC ratio (% RWA) ^{50,51}	27.0%	27.0%	22.9%			
TLAC ratio (% LRE) ⁵¹	8.3%	8.1%	6.75%			
Subordinated MREL ratio (% RWA) ⁵⁰	27.0%	27.0%	22.1%			
Subordinated MREL ratio (% LRE)	8.3%	8.1%	6.25%			
Total MREL ratio (% RWA) ⁵⁰	31.5%	31.8%	26.7%			
Total MREL ratio (% LRE)	9.7%	9.5%	6.25%			
Distance to the distribution restriction trigger (€bn) ⁵²	41	45		11	13	

* Final value as of 31 December 2025 of the regulatory solvency and resolution ratios of the Crédit Agricole Group and Crédit Agricole S.A.

クレディ・アグリコル S.A.では、分配制限のトリガーまでの距離は **MDA トリガー⁵²**までの距離、すなわち 262 ベーシス・ポイント（2026 年 3 月 31 日時点の CET1 資本の 110 億ユーロ）です。クレディ・アグリコル S.A.は L-MDA（レバレッジ・レシオ・バッファ要件までの距離）要件また M-MDA（MREL 要件までの距離）の対象外です。

クレディ・アグリコル・グループでは、分配制限までの距離は 2026 年 3 月 31 日時点の **L-MDA トリガー**までの距離です。クレディ・アグリコル・グループは、L-MDA トリガーを 185 ベーシス・ポイント（Tier 1 資本で 410 億ユーロ）上回るバッファとなりました。

クレディ・アグリコル・グループの **TLAC レシオ**及び **MREL レシオ**は 2026 年 3 月 31 日時点で、要件を大きく上回っています⁵¹。クレディ・アグリコル・グループは、**M-MDA トリガー**を 410 ベーシス・ポイント（CET1 資本で 280 億ユーロ）上回るバッファとなりました。2026 年 3 月 31 日時点で、M-MDA トリガーまでの距離は、TLAC 比率と対応要件との間の距離に相当します。2028 年中期計画の目標として、クレディ・アグリコル・グループは、適格優先シニア債を除き、TLAC レシオを RWA の 27%前後に維持します。

⁵⁰ SREP requirement applicable at 31 March 2026, including the combined capital buffer requirement (a) for Crédit Agricole Group a 2.5% capital conservation buffer, a 1.5% G-SIB buffer (applicable since 1 January 2026 following the notification received from the ACPR on 27 November 2024), the countercyclical buffer set at 0.78%, as well as the 0.09% systemic risk buffer and (b) for Crédit Agricole S.A., a 2.5% capital conservation buffer, the countercyclical buffer set at 0.67% as well as the 0.14% systemic risk buffer.

⁵¹ As part of its annual resolvability assessment, Crédit Agricole Group has chosen to continue waiving the possibility offered by Article 72ter(3) of the Capital Requirements Regulation (CRR) to use senior preferred debt for compliance with its TLAC requirements in 2026.

⁵² 総合資本バッファ要件を遵守していない場合。クレディ・アグリコル S.A.の分配可能要素は 455 億ユーロで、内訳は 2025 年 12 月 31 日時点で分配可能積立金が 324 億ユーロ、資本剰余金が 131 億ユーロです。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

多様でばらつきのある顧客預金は 2026 年 3 月 31 日時点で 1 兆 1,760 億ユーロとなり、2025 年 12 月に比べて安定しました。

2026 年 3 月 31 日時点の当グループの流動性準備金は、ヘアカット後の時価⁵³で 4,750 億ユーロとなり、2025 年 12 月 31 日から 100 億ユーロ減少しました。

流動性準備金は、トレジャリー資産控除後の短期債務の 2 倍を超えています。

流動性準備金の変動は、とりわけ以下の要因によるものでした。

- 証券ポートフォリオ（適格流動資産（HQLA）及び非 HQLA）が 100 億ユーロ減少
- 中央銀行に差し入れた担保のうち担保権が解除された資産が 10 億ユーロ増加
- 中央銀行預け金が 10 億ユーロ減少

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金（ECB の資金供給に依拠した後）を維持する取り組みを継続しています。ヘアカット後の中央銀行適格非 HQLA 資産は 1,290 億ユーロとなりました。

2026 年 3 月 31 日現在の当グループの流動性のバランスシートは 1 兆 7,420 億ユーロで、**安定的な使用資金に対する安定的な調達資金の超過額は 2,020 億ユーロ**で、当四半期に 80 億ユーロ増加しました。

長期債務は 2026 年 3 月 31 日時点で 3,370 億ユーロで、2025 年 12 月末に比べて 130 億ユーロ増加しました。長期債務には、以下のものが含まれます：

- 970 億ユーロの担保付きシニア債（当四半期は安定）
- 1,730 億ユーロの優先シニア債（60 億ユーロ増）
- 440 億ユーロの非優先シニア債（50 億ユーロ増）
- 230 億ユーロの Tier 2 債券（20 億ユーロ増）

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

2026 年 3 月 31 日時点の平均 LCR レシオ（ローリング 12 か月ベースで算定）は、クレディ・アグリコル・グループが 136%（850 億ユーロの余剰に相当）、**クレディ・アグリコル S.A.が 142%**（830 億ユーロの余剰に相当）でした。クレディ・アグリコル・グループの LCR レシオは、2028 年中期計画の目標レンジである 110%から 130%を上回っていることに注目されたい。

加えて、2025 年 12 月 31 日時点で、**クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の安定調達比率（NSFR）はそれぞれ 119%と 114%**でした。

⁵³ 流動性準備金に含まれる証券は 2024 年 12 月から、中央銀行の経済的実態の評価をより反映するために、個別のストレス（従来はシステミック・ストレス）を割り引いた上で評価されています。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も中長期資金供給について慎重な方針に従います。

2026 年 3 月 31 日時点で、当グループの主要発行体は、中・長期債によって市場で 144 億ユーロ相当額⁵⁴を調達し、このうちの 80%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。

具体的には、クレディ・アグリコル S.A.を除いた当グループでは以下の金額が計上されています。

- クレディ・アグリコル・アシュアランスは 7 億 5,000 万ユーロの 2036 年満期一括償還 Tier2 債を発行しました。
- クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス & モビリティは以下の発行を行いました。
 - クレディ・アグリコル・オートバンク (CAAB) を介して 6 億 5,000 万ユーロのユーロ中期債 (EMTN) の発行
 - Agos を介した 8 億ユーロの証券化
- クレディ・アグリコル・リーシング & ファクタリングは Lixxbail S.A.を介して 5 億ユーロ相当の証券化を行いました。
- クレディ・アグリコル・ネクスト・バンク (スイス) は、総額 1 億スイスフランの担保付きシニア債形式で 1 件のトランシェを発行しました。

2026 年 3 月 31 日に、クレディ・アグリコル S.A.は市場を通じて 116 億ユーロ相当の資金を調達しました^{54 55}。

当行は 116 億ユーロ相当額を調達し、3 月末時点で、このうち 58 億ユーロ相当額が非優先シニア債、16 億ユーロ相当額が Tier 2 債、14 億ユーロ相当額が優先シニア債、28 億ユーロ相当額が担保付きシニア債でした。資金調達は以下を含め、様々な形式と通貨で構成されています。

- 25 億ユーロ^{55、56}
- 35 億米ドル (30 億ユーロ相当)
- 7 億 5,000 万ポンド (9 億ユーロ相当)
- 1,150 億円 (6 億ユーロ相当)
- 4 億シンガポール・ドル (3 億ユーロ相当)
- 22 億 5,000 万豪ドル (13 億ユーロ相当)
- 3 億スイスフラン^{55、56} (3 億ユーロ相当)

クレディ・アグリコル S.A.は 2026 年 3 月末時点で資金調達計画の 72%^{55、56}をユーロ以外の通貨で発行しています。

さらに 2026 年 4 月 30 日、2026 年 6 月 23 日償還予定の残高 8,700 万ポンドの AT1 債 (XS2353099638-XS2353100402) の早期償還を発表しました。

2026 年の MLT 市場資金調達プログラムは 180 億ユーロに設定され、優先シニア債または担保付きシニア債が 60 億ユーロ、非優先シニア債または Tier2 債が 120 億ユーロに分けられています。

当該プログラムは 2026 年 3 月 31 日時点で以下の通り、65%完了しています。

- 担保付きシニア債で 28 億ユーロ相当
- 優先シニア債で 14 億ユーロ相当
- 非優先シニア債で 58 億ユーロ相当
- Tier 2 債で 16 億ユーロ相当

⁵⁴ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁵⁵ AT1 発行を除く

⁵⁶ 担保付きシニア債発行を除く

付属資料 1 – クレディ・アグリコル・グループ：部門別損益計算書

クレディ・アグリコル・グループ – 部門別実績（2026 年度 1 四半期と 2025 年度第 1 四半期）								
	Q1-26							
m€	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,628	1,042	1,065	1,958	867	2,359	(919)	10,000
Operating expenses	(2,607)	(668)	(536)	(919)	(477)	(1,318)	493	(6,033)
Gross operating income	1,021	374	530	1,038	389	1,041	(426)	3,967
Cost of risk	(408)	(112)	(72)	(18)	(278)	(49)	(23)	(960)
Equity-accounted entities	7	-	-	144	1	8	111	271
Net income on other assets	29	0	(0)	0	(3)	0	0	27
Income before tax	649	262	457	1,164	110	1,000	(337)	3,305
Tax	(228)	(112)	(163)	(339)	(17)	(276)	114	(1,021)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	-	-	-	-	-
Net income	421	150	294	825	94	724	(223)	2,284
Non controlling interests	1	(0)	(42)	(120)	(23)	1	(3)	(187)
Net income Group Share	421	149	252	705	71	724	(225)	2,097
	Q1-25 ⁵⁷							
m€	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,352	963	1,048	2,049	868	2,408	(962)	9,726
Operating expenses	(2,530)	(625)	(535)	(936)	(474)	(1,360)	468	(5,992)
Gross operating income	822	338	513	1,113	395	1,047	(494)	3,734
Cost of risk	(319)	(92)	(67)	(11)	(249)	25	(22)	(735)
Equity-accounted entities	6	-	-	28	36	6	103	177
Net income on other assets	3	1	(0)	(0)	0	0	0	4
Income before tax	511	247	445	1,130	182	1,078	(413)	3,180
Tax	(170)	(112)	(137)	(351)	(12)	(305)	87	(1,000)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	0	-	-	-	-	0
Net income	341	135	308	779	170	773	(326)	2,180
Non controlling interests	0	(0)	(42)	(101)	(21)	(36)	7	(193)
Net income Group Share	341	135	266	679	148	738	(319)	1,987

⁵⁷ Q1-25 is expressed on a pro forma basis (Banco BPM consolidated under the equity method)

付属資料 2-クレディ・アグリコル S.A. : 部門別損益計算書

クレディ・アグリコル S.A. – 部門別実績（2026 年度第 1 四半期と 2025 年度第 1 四半期）							
€m	Q1-26						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	1,960	2,358	867	1,042	1,041	(273)	6,994
Operating expenses	(919)	(1,318)	(477)	(668)	(515)	(84)	(3,981)
Gross operating income	1,040	1,040	389	374	526	(357)	3,013
Cost of risk	(18)	(49)	(278)	(112)	(71)	(19)	(547)
Equity-accounted entities	144	8	1	-	-	89	242
Net income on other assets	0	0	(3)	0	(0)	0	(3)
Income before tax	1,166	999	110	262	455	(287)	2,706
Tax	(339)	(276)	(17)	(112)	(163)	117	(790)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-
Net income	827	724	94	150	292	(170)	1,916
Non controlling interests	(127)	(13)	(23)	(7)	(63)	(9)	(241)
Net income Group Share	700	711	71	143	230	(179)	1,676
€m	Q1-25 ⁵⁸						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	2,058	2,408	868	963	1,025	(389)	6,935
Operating expenses	(936)	(1,360)	(474)	(625)	(515)	(81)	(3,991)
Gross operating income	1,123	1,048	395	338	511	(470)	2,944
Cost of risk	(11)	25	(249)	(92)	(66)	(21)	(413)
Equity-accounted entities	28	6	36	-	-	80	149
Net income on other assets	(0)	0	0	1	(0)	0	1
Income before tax	1,139	1,078	182	247	444	(410)	2,681
Tax	(352)	(305)	(12)	(112)	(137)	133	(786)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	0	-	0
Net income	787	774	170	135	308	(277)	1,895
Non controlling interests	(107)	(50)	(21)	(6)	(62)	(3)	(249)
Net income Group Share	680	723	148	129	246	(280)	1,646

⁵⁸ 2025 年度第 1 四半期比は見積りベースで表示（Banco BPM は持分法で連結）

付属資料 3 – 1 株当たりのデータ

クレディ・アグリコル S.A. – 1 株当たり利益、1 株当たり純資産額及び RoTE

(€m)		Q1-26	Q1-25
Net income Group share		1,676	1,824
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(115)	(129)
- Foreign exchange impact on reimbursed AT1		-	10
NIGS attributable to ordinary shares	[A]	1,561	1,705
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	3,025	3,025
Net earnings per share	[A]/[B]	0.52 €	0.56 €

(€m)		31/03/2026	31/03/2025
Shareholder's equity Group share		79,092	77,378
- AT1 issuances		(8,116)	(8,726)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		3,145	2,504
- Payout assumption on annual results (*)		(3,419)	(3,327)
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	[D]	70,702	67,828
- Goodwill & intangibles - Group share (**)		(19,609)	(17,764)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	[E]	51,092	50,065
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	3,025	3,025
NBV per share , after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	23.4 €	22.4 €
+ Dividend to pay (€)	[H]	1.13 €	1.10 €
NBV per share , before deduction of dividend to pay (€)		24.5 €	23.5 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	16.9 €	16.5 €

* dividend proposed to the Board meeting to be paid

** including goodwill in non-controlling interests

(€m)		Q1-26	Q1-25
Net income Group share	[K]	1,676	1,824
Additional corporate tax	[L]	-47	-103
IFRIC	[M]	-163	-173
NIGS annualised	[N]	7,306	8,062
Interests on AT1, including issuance costs, before tax, foreign exchange impact, annualised	[O]	-459	-505
Result adjusted	[P] = [N]+[O]	6,846	7,557
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg (1)	[J]	50,040	48,750
Stated ROTE adjusted (%)	= [P] / [J]	13.7%	15.5% ⁽²⁾

(1) 2025 年 12 月 31 日から 2026 年 3 月 31 日までに算出され、普通株式に帰属する再評価前の TNBV の平均 ([E] 行)。修正再表示後平均株主資本グループ帰属分は、無形資産、すべての未実現損益、AT1 債の残高、及び当期利益に対する配当予定に相当します。

(2) RoTE は、すべての未実現損益を修正再表示した有形株主資本に基づいて計算されます。

代替的業績指標⁵⁹

NBV（純資産額）（再評価されない）

再評価されない純資産額は、AT1 債券の発行額、OCI グループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に相当しています。

1 株当たり純資産額、1 株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の 1 つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1 株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS（1 株当たり利益）

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1 債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPS は、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング 4 四半期の）信用リスク関連費用を、（期首における過去 4 四半期の平均）残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。

2019 年度第 1 四半期より、算定に用いる残高は、引当金控除前の顧客残高です。

この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

要注意債権はデフォルト状態の債権です。融資先は、次の 2 つの条件のいずれかが満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して 90 日超遅延している（支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く）。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

減損（又は不良）債権引当率

この比率は、引当金残高を減損顧客貸出金総額で除して算出されます。

減損（または不良）債権比率

⁵⁹ APM は、財務諸表には表示されず、会計基準にも定義されていないが、純利益グループ帰属分や RoTE などの財務情報の提供において使用される財務指標です。これらは、会社の実際の業績を理解しやすくするために使用されます。各 APM 指標は、その定義において会計データとマッピングされます。

この比率は、個別に評価減された引当金控除前の顧客貸付総額を、顧客貸付総額の合計で除算したものです。

純利益グループ帰属分

当該事業年度の税引後純利益（損失）。全部連結された子会社における純利益グループ帰属分から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE（有形株主資本利益率）

RoTE(有形株主資本利益率)は、無形資産及び営業権の減損を除き、AT1 債のクーポンを差し引いた年間換算純利益グループ帰属分を、無形資産、未実現損益、AT1 債の残高及び翌期の予定配当を修正再表示した平均株主資本グループ帰属分と比較します。

免責事項

クレディ・アグリコル S.A. 及びクレディ・アグリコル・グループの 2026 年度第 1 四半期の財務情報は、本プレスリリース、並びにプレゼンテーションのスライド及び関連する付属資料から構成されています。これらはすべて、以下で入手可能です。

<https://www.credit-agricole.com/en/finance/financial-publications>

本プレゼンテーションは、当グループの動向に関する情報として提供される将来の情報を含む場合があります。このデータは、2019 年 3 月 14 日の EU 委託法令 2019/980（第 1 章第 1 条 d）の意味での予測ではありません。

この情報は、一定の競争環境や規制環境における多くの経済的仮定に基づいたシナリオから作成されました。したがって、これらの仮定は、実際の結果が予測と異なる原因となりうるランダムな要因に左右されます。同様に、財務諸表は、特に時価や資産の減損の計算において、見積りに基づいています。

読者は、自らの判断を下す前に、これらすべてのリスク要因と不確実性を考慮に入れる必要があります。

適用基準及び比較可能性

2026 年 3 月 31 日に終了した 3 ヶ月間の数値は、欧州連合で採択され、同日に適用可能な IFRS 及び現在施行されている規制に従って作成されています。本財務情報は、IAS 第 34 号「中間財務報告」で規定されている中間期の財務諸表に相当するものではなく、監査を受けていません。

注記：クレディ・アグリコル S.A. グループ及びクレディ・アグリコル・グループの連結範囲には、AMF へのクレディ・アグリコル S.A. の 2025 ユニバーサル登録文書の提出以降、重要な変更はありません。表及び分析に含まれる数値の合計は、四捨五入のため、報告された合計と若干異なる場合があります。

注意：クレディ・アグリコル・グループ、クレディ・アグリコル S.A. 及び事業部門の業績、損益計算書と収益率の両方について、すべての財務データが表示されています。

2026 年 3 月 31 日現在、Banco BPM は持分法により連結されています。

2025 年 3 月 31 日現在のデータはすべては見積りベースで表示されており、Banco BPM は持分法で会計処理されています。詳細な数値はすべて、プレゼンテーションのスライドとともに四半期ごとに公表される一連のデータに記載されています。

決算スケジュール

2026 年 5 月 20 日	サン・ブリューで総会
2026 年 5 月 26 日	ワークショップ LCL
2026 年 5 月 26 日	配当落ち日
2026 年 5 月 28 日	配当支払日
2026 年 7 月 31 日	2026 年度第 2 四半期及び上半期の決算発表
2026 年 10 月 13 日	中間配当落ち日
2026 年 10 月 15 日	中間配当支払日
2026 年 10 月 30 日	2026 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

問い合わせ先

クレディ・アグリコルのプレス対応担当者

アレクサンドル・バラット	+ 33 1 57 72 12 19	alexandre.barat@credit-agricole-sa.fr
オリヴィエ・タサン	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
マチルド・デュラン	+ 33 1 57 72 19 43	mathilde.durand@credit-agricole-sa.fr
ベネディクト・グヴェール	+ 33 1 49 53 43 64	benedicte.gouvert@ca-fnca.fr

クレディ・アグリコル S.A.IR 担当者

機関投資家		investor.relations@credit-agricole-sa.fr
個人株主	+33 800 000 777 (フリーダイヤル – フランスのみ)	relation@actionnaires.credit-agricole.com
セシル・ムートン	+ 33 1 57 72 86 79	cecile.mouton@credit-agricole-sa.fr
株式 IR 担当 :		
ジャン=ヤン・アセラフ	+ 33 1 57 72 23 81	jean-yann.asserat@credit-agricole-sa.fr
フェティ・アズーグ	+ 33 1 57 72 03 75	fethi.azzoug@credit-agricole-sa.fr
オリアーネ・カンテ	+ 33 1 43 23 03 07	orlane.cante@credit-agricole-sa.fr
ニコラ・イアンナ	+ 33 1 43 23 55 51	nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
レイラ・マムー	+ 33 1 57 72 07 93	leila.mamou@credit-agricole-sa.fr
アンナ・ピグレフスキー	+ 33 1 43 23 40 59	anna.pigoulevski@credit-agricole-sa.fr
債券投資家及び格付機関担当 :		
グウェナエル・レレスト	+ 33 1 57 72 57 84	gwenaelle.lereste@credit-agricole-sa.fr
フローレンス・クインティン・デ・ケルカディオ	+ 33 1 43 23 25 32	florence.quintindekercadio@credit-agricole-sa.fr
ユーリー・ロマノフ	+ 33 1 43 23 86 84	yury.romanov@credit-agricole-sa.fr

すべてのプレスリリースは、www.credit-agricole.com – www.creditagricole.info をご覧ください。



Crédit_Agricole



クレディ・アグリコル・グループ



creditagricole_sa